

## お詫びと訂正

このたびは、日立アドバンスサーバ HA8000/RS220[2014年1月～モデル] (以下 システム装置) または HA8000/RS220-s[2014年1月～モデル] (以下 システム装置)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

『ユーザーズガイド』に訂正箇所があります。謹んでお詫び申し上げます。

また、「Windows Server 2008 R2 インストール代行サービス付モデル」および「ロングライフモデルⅡ」のサポートについて本書の巻末に記載しております。対象の製品をご使用になる場合、ご参照いただきまうようお願い申し上げます。

### ■ユーザーズガイド ～運用編～

- ・「4 運用上の注意事項」「4.3 システムクロックに関する注意事項」「4.3.1 UTC 設定の注意事項について」「(2)VMware の場合」(P.63)

#### 次の内容に変更

VMware vSphere ESXi 5.5 / VMware vSphere ESXi 5.1 / VMware vSphere ESXi 5.0 がサポートするタイムゾーンは、UTC (協定世界時) のみです。このため、ESXi をインストールするシステム装置 (ESXi ホスト) は、システム BIOS の時刻を UTC に設定する必要があります。

システム装置出荷時は、システム BIOS の時刻を JST (Japan Standard Time : 日本標準時) に設定しています。インストール時にシステム BIOS の時刻を UTC に設定しなかった場合、vSphere クライアントで表示される ESXi ホストの時刻が JST より 9 時間進みます。vSphere クライアントから時刻を JST に設定してください。システム BIOS に設定が反映され、システム BIOS の時刻は UTC (JST から 9 時間遅れた時刻) となります。



- UTC は、JST (Japan Standard Time : 日本標準時) から 9 時間遅れた時間です。
- vSphere クライアントは、vSphere クライアントを起動している PC のタイムゾーンを認識し、ESXi ホストのシステム BIOS から得た UTC を元に時刻を補正して現地時間 (ローカルタイム) を表示します。  
たとえば、UTC が "9:00" で、vSphere クライアントを起動している OS のタイムゾーンが日本時間 (UTC+9 時間) の場合、vSphere クライアントの時刻表示は"18:00" となります。
- VMware 代行インストールモデルは、出荷時にシステム BIOS の時刻を UTC に設定しています。

なお、VMware vSphere ESXi 5.5 / VMware vSphere ESXi 5.1 / VMware vSphere ESXi 5.0 の運用時、システム BIOS の時刻が JST ではなく UTC となるため、次のイベントの発生日時も UTC で表示されます。運用時に注意してください。

- SVP ログのイベント
- JP1/ServerConductor の SVP 直接通知アラート
- 「Hitachi Compute Systems Manager」に通知されるアラート
- Web コンソール上で表示または取得されるログ (システムイベントログなど)
- SNMP 通報 (送信時刻)

また、Web コンソール上の設定で BMC の時刻を NTP サーバと同期する場合、NTP 時刻は UTC で運用してください。

## ■ ユーザーズガイド ～BIOS 編～

- ・ 「2 MegaRAID WebBIOS」 「2.3 MegaRAID WebBIOS の設定項目」 「2.3.4 Controller Properties: ディスクアレイコントローラ設定メニュー」 「(1) Properties: コントローラプロパティサブメニュー1」 (P.78、P.79)

誤

設定項目	設定内容	設定値／表示
N Spinup Drive Count *3	システム起動時の物理ドライブ起動台数	0 ~ 8 / 【1】 / 【4】 *5
O Spinup Delay *3	システム起動時の物理ドライブ起動タイミング	0 ~ xxx / 【6】 / 【4】 *6

...

\*5 ディスクアレイコントローラ（内蔵用）〔標準搭載〕は「1」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に設定してください。

\*6 ディスクアレイコントローラ（内蔵用）〔標準搭載〕は「6」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に設定してください。

正

設定項目	設定内容	設定値／表示
N Spinup Drive Count *3	システム起動時の物理ドライブ起動台数	0 ~ 8 / <del>【1】</del> / <b>【4】 *5</b>
O Spinup Delay *3	システム起動時の物理ドライブ起動タイミング	0 ~ xxx / 【6】 / 【4】 / <b>【2】 *6</b>

...

\*5 ディスクアレイコントローラ（内蔵用）〔標準搭載〕は「1」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に設定してください。

\*6 ディスクアレイコントローラ**ボード**（内蔵用）〔標準搭載〕は「6」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に、**ディスクアレイコントローラボード（外付け用：キャッシュバックアップ付）は「2」に設定してください。**

- ・ 「2 MegaRAID WebBIOS」 「2.3 MegaRAID WebBIOS の設定項目」 「2.3.4 Controller Properties: ディスクアレイコントローラ設定メニュー」 「(1) Properties: コントローラプロパティサブメニュー1」 (P.79)

次の補足の内容を削除	
<div> <div>...</div> <div>補足</div> </div>	<p>■ 設定値を変更する場合は、...</p> <p>■ 「Spinup Drive Count」、「Spinup Delay」の設定は固定されているため、設定値を変更しても反映されません。</p>

- ・ 「2 MegaRAID WebBIOS」「2.8 MegaRAID WebBIOS の設定値」「2.8.2 設定値一覧」(P.139、P.140)

誤	
項目	設定値
Controller Properties	
Properties	
...	
Spinup Drive Count	[1 または 4] *2
Spinup Delay	[6 または 4] *3
...	
...	
*1 ... *2 ディスクアレイコントローラボード（内蔵用） [標準搭載] は「1」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に設定します。 *3 ディスクアレイコントローラボード（内蔵用） [標準搭載] は「6」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に設定します。 *4 ...	
正	
項目	設定値
Controller Properties	
Properties	
...	
Spinup Drive Count	[ <del>1</del> または 4] *2
Spinup Delay	[6、4 または 2] *3
...	
...	
*1 ... *2 <del>ディスクアレイコントローラボード（内蔵用） [標準搭載] は「1」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に設定します。</del> *3 ディスクアレイコントローラボード（内蔵用） [標準搭載] は「6」に、ディスクアレイコントローラボード（外付け用）は「4」に、 <del>ディスクアレイコントローラボード（外付け用：キャッシュバックアップ付）は「2」に設定します。</del> *4 ...	

## ■ ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～

- ・ 「4 Web コンソールの使用方法」「4.2 Web コンソールによる初期設定」「4.2.1 ユーザアカウントの設定」  
「(2) 「ユーザアカウント設定」画面」(P.27)

### 補足に次の内容を追加



- パスワードとして使用できる文字は先頭を含めて、「ASCII コード中の表示可能文字 (0x21-0x7e)」です。

- ・ 「4 Web コンソールの使用方法」「4.4 Web コンソールの設定項目」「4.4.3 「Resources」タブー「Systems」」  
「(3) 「IPMI」画面ー「IPMI ユーザアカウント」タブ」(P.63)

### 誤

...

\*2 「ユーザ名」は半角英数字で最大 32 文字までです。

...

### 正

...

\*2 「ユーザ名」は半角英数字で最大 16 文字までです。

...

- ・「4 Web コンソールの使用方法」「4.4 Web コンソールの設定項目」「4.4.5 「Administration」タブ」「(12) 「証明書」画面」「CSR の作成とダウンロード」(P.101)

誤	<p>...</p> <p>*4 非構造体名称：最大 60 文字の英数字、記号を入力できます（省略可能です）。</p> <p>*5 証明書取消パスワード：最大 30 文字の英数字、記号を入力できます（省略可能です）。</p> <p>...</p>
正	<p>...</p> <p>*4 非構造体名称：最大 60 文字の英数字、記号を入力できます（省略可能です）。  <u>使用できる記号は次のとおりです。</u>  <u>空白記号、'（アポストロフィ）、-（ハイフン）、,（カンマ）、=（イコール）、/（スラッシュ）、()（括弧）、.（ピリオド）、:（コロン）、+（プラス）、?（クエスチョン）。</u></p> <p>*5 証明書取消パスワード：最大 30 文字の英数字、記号を入力できます（省略可能です）。  <u>使用できる記号は次のとおりです。</u>  <u>空白記号、'（アポストロフィ）、-（ハイフン）、,（カンマ）、=（イコール）、/（スラッシュ）、()（括弧）、.（ピリオド）、:（コロン）、+（プラス）、?（クエスチョン）。</u></p> <p>...</p>

- ・「付録」「付録 C LDAP サーバ連携機能」「付録 C.3 Active Directory 環境設定」「BMC ログイン用ユーザーアカウントの登録」「パスワード」(P.215)

誤	<p>...</p> <p>使用可能文字（先頭）：ASCII コード中の表示可能文字（0x20-0x7e）</p> <p>...</p>
正	<p>...</p> <p>使用可能文字（先頭）：ASCII コード中の表示可能文字（<b>0x21</b>-0x7e）</p> <p>...</p>

# 「Windows Server 2008 R2 インストール代行サービス付モデル」のサポートについて

Windows Server 2012 R2 プレインストールモデルにおいて、Windows ダウングレード権に基づき、Windows Server 2008 R2 をお客様に代わってインストールする「インストール代行サービス付モデル」を販売開始しました。

インストール代行サービスのサービス内容は、システム装置に添付される「Windows Server 2008 R2 インストール代行サービス仕様書」をご参照ください。

## Windows Server 2008 R2 プレインストールモデルとの相違点

- Windows Server 2012 R2 プレインストールモデルがベースとなります。  
このため、システム装置に貼り付けられる COA ラベルは、Windows Server 2012 R2 のものとなります。  
また、Windows Server 2012 R2 のインストールメディアも添付されます。
- Windows Server 2008 R2 のインストールメディアは、「Windows® メディアキット」となります。  
プレインストール用メディアと異なり、Windows® メディアキットは SP1 適用済みメディア（スリップストリームメディア）となります。
- Windows® メディアキットで OS をインストールする場合、ライセンス認証（アクティベーション）が必要となります。  
ライセンス認証に必要なプロダクトキー（Physical key / Virtual key）は、Windows® メディアキットとともに提供されます。

## Windows Server 2008 R2 インストール代行サービス付モデルの注意点

マニュアルは、「Windows Server 2008 R2 プレインストールモデル」の記述を「Windows Server 2008 R2 インストール代行サービス付モデル」に読み替えてください。

なお、OS インストールメディア（セットアップ DVD）は次のとおり読み替えてください。

対象 OS	対象 DVD-ROM
Windows Server 2008 R2 Standard	Windows Server 2012 R2 プレインストールモデル（インストール代行サービス付モデル）付属の Windows® メディアキット：Windows Server 2008 R2 Standard 用『Microsoft® Windows Server 2008 R2』DVD-ROM
Windows Server 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2012 R2 プレインストールモデル（インストール代行サービス付モデル）付属の Windows® メディアキット：Windows Server 2008 R2 Enterprise 用『Microsoft® Windows Server 2008 R2』DVD-ROM

# 「ロングライフモデルⅡ」のサポートについて

「ロングライフモデルⅡ」を2014年12月末より販売開始しました。次の説明をご一読いただき、運用くださいますようお願い申し上げます。

## ロングライフモデルⅡについて

### □ ロングライフモデルⅡの概要

システム装置のファン制御を変更し、動作環境を適切に維持することで、長期間の安定稼動を保証するモデルです。これにより、保守サービス期間を6年または7年まで延長することが可能です。

なお、「ロングライフモデルⅡ」の保守サービス期間は、ほかのシステム装置と異なります。システム装置に添付される「保証書」の内容をご確認ください。

### □ 対象モデル

ロングライフモデルⅡは、システム装置に貼られているラベルの形名（TYPE）記載や、ご購入時にご指定いただいたセット形名で見分けることができます。

- GQx222AM-~~x~~xxxxxx （xは任意の英数字）
- GQx222TM-~~x~~xxxxxx （xは任意の英数字）

#### ■ 【後から7桁目】：保証区分

8：ロングライフモデルⅡ（7年）

### □ 設置環境

ロングライフモデルⅡの設置環境は、ロングライフサポートモデルと同じです。次に記載されている「ロングライフサポートモデル」の記述を「ロングライフモデルⅡ」に置き換えてお読みください。

『ユーザーズガイド ～導入編～』「1 システム装置を導入する前に」「1.2 設置環境」

### □ 有寿命部品

ロングライフモデルⅡの有寿命部品は、ロングライフサポートモデルと同じです。次に記載されている「ロングライフサポートモデル」の記述を「ロングライフモデルⅡ」に置き換えてお読みください。

『ユーザーズガイド ～運用編～』「付録」「付録 A お手入れと交換品」「付録 A.3 有寿命部品」

### □ 電源ユニットの搭載数

ロングライフサポートモデルと同様に、標準で電源ユニットが2台搭載されています。